

「これ、これだけの
の値を記入。
は自費は、然費に
いて「ドライバーの
差値」を算出し、表



る。このため、自費の
職業に誇りを持つよう
に努力して来た。
(玉島雅基)

運輸(江藤博一社長、
平塚市)、聖巨トラン
スネットワーク(山田

優良運行管理者講習会
を開催した。
約80人の参加者が集

「ドライバーに交通安
全を呼び掛けた。

NEXT VISION

~次世代の担い手たち~

ドライバー時代の経験基に

社では社長の経験を交えた、現場視点でのモノの考え方が生かされている。現在の社員教育も、社長自身のドライバー時代の経験を基にしているものも少なくないという。

「現場で何か困ったことがあったら、誰かに携帯で教えてもらえるような体制にしている。自分もそうやって助けても

らった」と話し、「もちろん、社員同士の結束力もあると思う」

同社長の社員教育は、「平専門だし、覚えてもらうことは多い。大変だが、ウチで仕事を覚えたら、どこでも通用するレベルぐらいに成長する」と、入れ込み具合はすさまじい。年に何度か、ディーラーなど外部企業

から講師を

招いて研修も行ってという。

同社長に、ドライバーが目指して欲しいところを尋

ねると、「単純に荷物を届けるだけが仕事じゃない。プラスお客様の目線に立って、何かできなにか考えるようになってほしい。そのほうが仕事にも張り合いが出てくると思う」と言いながらも、「実際は、なかなか分かってもらえないとは思いますが、機会がある限り伝えていく。止めてしまったらそこで終わり」と打ち明ける。

これからの目標は、「他社が運べないような、特殊なものを運べる体制を整えたい。会社の強みとしてもそうだが、何より、そういうものがあるとドライバーにとっても励みになる」と、常にドライバーを中心に考えている。

【三重】松阪市に本社を構える中山商運(中山豊社長)は創業以来、平トラック専門でやってきた。「平でしか運べないものがあり、ウイングと違って平運賃でやれることなどは、平専門の強みだと思う。いつか、この辺りで平専門ならウチのことだと言われるようになりたい」と中山社長は話す。

同社長は元々、トラックドライバーをやっていただけに、同



中山商運
中山 豊社長

(小倉太郎)